

2009.3.1



医療教育開発センター ニューズレター

徳島大学大学院
ヘルスバイオサイエンス研究部
医療教育開発センター

1 巻頭言

センター長 安井 夏生

2 移転のお知らせ

3 取組紹介

4 平成20年度の主な活動紹介

5 平成21年度の予定

2 移転のお知らせ

当センターならびに臨床技能学習施設（スキルスラボ）は、平成21年5月頃に、臨床研究棟西側1階へ移転します。

開発センター案内図



1 巻頭言

ご挨拶

医療教育開発センター長 安井 夏生



医療教育開発センターは今年で開設6年目を迎えます。平成16年4月にヘルスバイオサイエンス研究部の下部組織として発足した当初は、専任のスタッフは寺嶋副センター長と担当事務補佐員の二名だけで、36㎡の事務室での心細いスタートでした。

しかし、玉置センター長（併任）の指導の下に種々の外部資金を獲得し、徐々にスタッフの充実を図るとともに蔵本キャンパスにおける医療人の養成に着実な実績をあげてまいりました。

平成18年12月から私がセンター長（併任）を引継ぎましたが、大学院共通科目のe-learning化、英語特別コースの推進、スキルスラボの運営、小豆島での大学院リトリート開催など、医・歯・薬・栄養・保健にまたがるInter-professional education (IPE)の推進に意を注いできたつもりです。

今春にはHBS研究部正面玄関の東側に、320㎡を超える医療教育開発センターと会議室（100㎡）が完成します。新しいセンターにはスキルスラボや模擬診察室などを併設し、医歯薬3学部の学生はもちろん研修医、看護師など、医療系職員が幅広く利用できるような工夫がされています。県立中央病院や市民病院など学外からのスキルスラボ利用もスケジュールが調整できれば受け入れる予定です。臨床技能を正しく習得するためには、設備面の充実だけでなく模擬患者の養成や専任のスキルスラボ・インストラクターの配置などソフト面の充実が必要です。今まで学長裁量経費で賄われてきたセンターの運営費や人件費は、H20年度から一部HBS研究部長経費で賄われており、来年度は増額される予定です。今後は徳島大学病院にも分担していただく必要があるでしょう。他学などの状況を見ても、医療教育開発センターの運営は臨時経費ではなく通常経費として計上する体制を整えなければならない時期にきていると思われる。

徳島大学蔵本キャンパスには医療系3学部・5大学院に加え、酵素研・ゲノム研があり生命科学の一大研究拠点を形成しています。世界的に見てもトップレベルの研究が展開されているわけですが、これら分野横断的なテーマを見出し、共同研究を推進することにより徳島大学の新たな方向性が見えてくるのではないかと考えます。教育と研究は表裏一体のものです。医療教育開発センターとしては単に平凡な医療人を養成するのではなく、すぐれた研究者の養成を行うための体制を確立していくのも大切な役割と考えます。

私自身はこの3月末でセンター長の任期を満了しますが、蔵本キャンパスにおけるIPEの推進に医療教育開発センターが果たさねばならない役割はますます大きくなる一方であり、今後更なる発展を願う次第です。

3 取組紹介 ●●●

特集

■現代 GP(H 18~20年度)「医療系学生の保育所実習による子育て支援」 ～医療職を目指す学生の人間力を高める～

平成 18 年度より文部科学省の補助金を得て実施されてきたプログラムが終了します。

このプログラムは、人間関係が希薄になってきている現代、学生自らがコミュニケーション能力の必要性を自覚し、学ぶモチベーションを高められる授業として立案、実施されてきました。様々な人との出会いは、基本的なマナーや社会的責任など多くのことを改めて考えるよい機会になります。将来人に向かい合う医療系の学生にとって、専門的な知識・技術を積み上げる前の基礎、すなわち専門準備教育といえるでしょう。平成 18 年度後期から平成 20 年度まで、医学部医学科、保健学科看護学専攻、歯学部、薬学部の 1 年生、計 350 名がこの授業を受講しました。毎週、朝から 3 時間、実習では自分の特定のパートナーが存在するこの授業は、学生にとって責任重大ですが、学生の授業評価は毎回非常に高く、「皆さんが選ぶ優れた授業」で徳島大学平成 19 年度前期共通教育賞、20 年度前期共通教育賞を受賞しました。平成 21 年度は全学共通教育の授業として継続されます。



<授業の流れ>



<実施状況>

- 平成 18 年度 後期医学科 20 名受講 (於:すぎの子共同保育所)
「医学入門」選択コースの枠組みでトライアル実施
- 平成 19 年度 前期 医学科 45 名 (於:すぎの子共同保育所) 以下全学共通教育科目として実施
保健学科看護学専攻 70 名 (於:助任保育園)
- 後期 医学科 50 名 (於:すぎの子保育園)
*徳島市内 6ヶ所の児童館に 1 日体験実習 1 回
- 平成 20 年度 前期 医学科 42 名、歯学部 1 名、薬学部 2 名 (於:出来島保育園、あゆみ保育園)
保健学科看護学専攻 70 名 (於:助任保育園)
- 後期 医学科 53 名 (於:すぎの子保育園)
*徳島市内 10ヶ所の児童館に 1 日体験実習 1 回

＜学生の授業評価：H19 - 前後期 165名、H20 - 前期 115名＞

	H19		H20	
	そう思う	ややそう思う	そう思う	ややそう思う
Q1. この授業を選択してよかった	90%	9% (合計99%)	90%	7% (合計97%)
Q2. 実習は満足できた	82%	14% (合計96%)	78%	20% (合計98%)
Q3. 実習での学びは大きかった	90%	9% (合計99%)	87%	12% (合計99%)
Q4. この授業は改めて基本的マナーを身につけることの一助になっている	79%	19% (合計98%)	82%	15% (合計97%)
Q5. この授業はホスピタリティ・マインドへの気づきの一助になっている	86%	12% (合計98%)	83%	16% (合計99%)
Q6. この授業は役立ち感を実感し自己肯定感の芽を育むことの一助になっている	57%	32% (合計89%)	50%	41% (合計91%)
Q7. この授業はコミュニケーション力を高めることの一助になっている	80%	17% (合計97%)	80%	19% (合計99%)
Q8. この授業は心の癒しや元気、やる気を育む一助になっている	77%	17% (合計94%)	74%	21% (合計95%)
Q9. この授業は自分を振り返る機会になっている	78%	20% (合計98%)	77%	19% (合計96%)
Q10. この授業を通して自分自身の生き方や普段の人間関係に変化があった	65%	27% (合計92%)	61%	34% (合計95%)
Q11. この授業は仲間のよいところが見える	80%	15% (合計95%)	73%	20% (合計93%)
Q12. この授業は仲間作りに役立っている	67%	26% (合計93%)	73%	23% (合計96%)



■大学院リトリート 第4回 Tokushima Bioscience Retreat 報告



と き：平成20年9月18日(木)～20日(土)
 ところ：香川県 リゾートホテル オリビアン小豆島
 参加者：5 教育部より 33 名
 内 容：セミナー（研究発表）、特別講演、懇親会
 表 彰：若手研究者奨励賞（教員審査） 3 名
 特別賞（学生投票） 1 名

今年は台風が接近する中ではありましたが、例年同様無事開催することができました。セミナーでは、学生が日ごろの研究テーマについて堂々とした発表を行い、懇親会では分野の異なる院生や教員が語り合いました。特別講演としては、産業技術総合研究所生命情報工学研究センターの研究チーム長広川貴次先生をお招きし、理論・計算による新しい創薬に関する大変 exciting なお話を伺うことができました。

また、今年も研究部長の配慮により若手研究者奨励賞を設けました。受賞した3名には、副賞として海外での学会旅費の一部が補助されることになっています。

受賞者

中尾 玲子さん（薬・生体栄養学 博士後期課程2年）
 松岡 和彦さん（薬・創薬生命工学 博士後期課程2年）
 長岡 和也さん（薬・創薬理論化学 博士前期課程2年）



若手研究者奨励賞 表彰式
 平成20年10月14日 研究部長室にて

■臨床技能学習施設

今年度4月から、専任のインストラクターとして臨床技能学習施設（スキルスラボ）に2名の職員を配置し、指導や補助として、実習をはじめ様々な講習会や研修などに携わりました。シミュレーターの使用方法の指導や学習者の支援を行うことで、利用者が効率よく臨床技能を学ぶことができる環境を提供し、これまでに比べより臨床現場での実践に近いトレーニングが行えるようになり、学部での利用のみならず、附属病院からの利用数も大幅に増加しました。

平成21年度の移転では、部屋数も増えてさらに広い面積が確保でき、より利用しやすい環境が整います。

今後、ソフト面も含めて、より一層快適な学習環境が提供できるよう、スキルスラボの管理・運営を行ってまいりますので、皆さまぜひご活用ください。

■FD講演会の開催

（テーマ IPE/IPW(Inter Professional Education/Working)の推進)

徳島大学平成20年度部局FD事業の採択を受け、医療専門職間連携教育の推進をテーマに、福島統教授（東京慈恵会医科大学）、平井みどり教授（神戸大学）をそれぞれ講師として招き、FD講演会を実施しました。多職種間の連携教育（IPE:Inter Professional Education）は、医療の質と安全の向上の面からも重要な課題となっています。実際に取組みを行っている各大学での事例や具体的な方法論について教示を受け、参加者からは早期からの医療チームの体験、コミュニケーションの積み重ねなどの重要性について認識した等の意見があり、IPEへの意識の高まりが感じられました。蔵本地区の医療系学部、附属病院も含め、さらに多くの教職員が理解し、共通認識を高めることを目標に、今後も継続してこのような機会を設けていきます。



福島統教授



平井みどり教授

4 平成20年度の主な活動紹介 -H20年4月~H21年3月-

H20年	4月12日	現代GP講演会 第1回「ホスピタリティ・マインドへの気づき（講師：高塚人志准教授・鳥取大学）」
	4月28日	仮移転（外来病棟1階→共通講義棟）
	6月9日	第4回CV（中心静脈穿刺）講習会（研修医教育講座）
	7月10日	第1回ルンパール講習会（研修医教育講座）
	8月6日	医学体験（スキルスラボ）研修（徳島文理高等学校）
	9月16日	看護職員確保事業実務研修採血・手洗い実習（社）徳島県看護協会）
	9月18日~20日	Tokushima Bioscience Retreat
	10月2日	現代GP講演会 第2回「ホスピタリティ・マインドへの気づき（講師：高塚人志准教授・鳥取大学）」
	10月14日	Tokushima Bioscience Retreat 優秀者表彰式
	11月27日	医療専門職間連携教育推進講演会Ⅰ（講師：福島統教授・東京慈恵会医科大学）
	12月4日	第5回CV（中心静脈穿刺）講習会
	12月13日	徳島大学現代GPシンポジウム「医療系学生の保育所実習による子育て支援」
H21年	1月26日	医療専門職間連携教育推進講演会Ⅱ（講師：平井みどり教授・神戸大学）

5 平成21年度の予定 ●●●

H21年	5月	当センター移転（4月下旬~5月中旬 スキルラボ休止予定）
	6月頃	第6回CV（中心静脈穿刺）講習会
	9月上旬	Tokushima Bioscience Retreat
	9月30日	「チーム医療入門」ワークショップ（医薬看護1年生）
	11月頃	第7回CV（中心静脈穿刺）講習会
	未定	FD講演会 2回